



杏林薬膳橋井

中医学にはよく「杏林」「橋井」などの言葉を使います。その言葉の由来、また歴史の中で有名な医学者・著作を連載して紹介します。

中国から到来した神農氏

(連載4) 順天堂大学医史研究室非常勤助手 陶 惠寧



～神農氏の著作～

中国古典では、神農氏の「百草を嘗めて医薬を興す」に関する記載が多く残されている。しかし『神農黄帝食禁』（七卷）、『神農明堂図』（一卷）、『神農本草経』（三卷）、『神農大幽五行』（二十七卷）、『神農教田相土穀種』（十四卷）、『神農雜子技道』（二十三卷）、『神農兵法』（一篇）など「神農」の名がついた書物はほとんど紛失した。

神農氏への尊敬と敬慕をこめて神農の名を冠した『神農本草経』は、二千年前の漢の時代に完成されたといわれる中国現存最古の本草（薬物）専門書であり、植物を中心に動物・鉱物も加えた薬種365種が収録されている。それを五世紀の医家陶弘景が増補して、まとめたのが『神農本草経集註』（七卷）で、後世の本草書の基幹となっている。

～日本に到来した神農氏～

1. 神農信仰

神農の伝説は、遣隋使や遣唐使によってやがて日本にも伝わった。日本に中国文化・中国医学が伝来された時代に、神農信仰の萌芽があったといわれる。

平安と鎌倉時代の重要な医薬文献にも神農の名が見られる。江戸時代以降、医家や薬問屋では、神農が医薬を業とするものの守護神として厚く信仰され、多くの掛け軸や木像が作られ、クスリの神様として崇拜された。その中でも湯島聖堂の神農像が良く知られている。

江戸時代後期、本草学の同好会（勉強会）が誕生した。その代表的な会には江戸の赭鞭（しゃべん）会、名古屋の嘗百（しょうひゃく）社などのように、神農にまつわる名称がついている。富山医科薬科大学（現在の富山大学）で、漢方・和漢薬に興味を持つ学生のサークルの名前も赭鞭会という。「赭鞭」と「嘗百」とは、『補史記』と『搜神記』の「神農が、赭（あか）い鞭（むち）で以って草木を薙（なぎ）倒し百草（ひゃくそう、多くの草）を嘗（な）めてから、医学・薬学を発見した」という中国の伝説にちなんだ名称である。

医薬の始祖として、漢方医や薬学者の尊崇を集めてきた代表的な祭に湯島聖堂の神農祭がある。神農は交易の神として、商業に携わる人々の間では商業神としても祀られているが、その代表的なのは大阪の神農祭である。

夏期スクーリングのお知らせ

2010年7月23日（金）
～25日（日）

まだ、定員に余裕がありますのでお問い合わせ下さい。

お知り合いの方をご紹介ください！



ご紹介いただいた方が中医薬膳師（通学）コースに入学された場合は、些少なながら謝礼を差し上げます。

是非、本格的な薬膳の知識を広めていきましょう！

（ただし、他のコースには適用されません。）

- i) 「本草つうしん」は在校生のみに配布しております。卒業後も購読をご希望される方は有料になりますので、お問い合わせ下さいませよう願ひ致します。
- ii) HPを持っている方で、本草薬膳学院のHPにリンク貼りしたい方は学院までご連絡下さい。ただし、HPの内容によっては掲載できない場合がありますので予めご了承下さい。



『和の中の中国茶』
 本学院第1期卒業生で日本国際茶藝会副会長の木下葉子（木村六葉）先生の著書が出版されました。
 写真家の菊池和男先生の美しい写真を見るだけでも楽しくなります。
 学院でも販売しておりますので、ご購入されたい方は事務室までお申し出下さい。
 価格につきましては1冊2500円（DVD付）で販売しております。

著書の紹介

